

太平記英勇傳

明石理太夫秀基

明石理太夫秀基は、東海道の明石に生れたる者なり。其の父は、明石の豪族なり。秀基は、幼くして武藝を學び、勇武なる者なり。其の母は、明石の豪族の娘なり。秀基は、母の愛を蒙り、武藝を學び、勇武なる者なり。其の父は、明石の豪族なり。秀基は、幼くして武藝を學び、勇武なる者なり。其の母は、明石の豪族の娘なり。秀基は、母の愛を蒙り、武藝を學び、勇武なる者なり。



一子
國
女
方
也

交



太平記英勇傳

稻上代九郎正忠

佐藤家之新田もくもくお世にまゝ、創之助より、
 江州の官旗の地廻り、時節、人への前上り、
 するも、新田の長田下、その理、
 稲上代九郎の、又、
 戦九郎の、
 且、
 明の、
 和、
 村、
 四、
 突、
 一、

一家、
 柳下、



太平記英勇傳

堀本儀太夫高利

佐藤十郎の勇正清國の戦功最を
 堀本儀太夫高利の戦功最を
 堀本儀太夫高利の戦功最を

長門郡
 人形町の堀本
 と儀太夫高利の戦功最を
 堀本儀太夫高利の戦功最を
 堀本儀太夫高利の戦功最を

一家傳傳史
 柳下亭権員記



一三〇番
 國士方臣
 〆

天
 文

太平記英勇傳

勇士左馬之助光晴

光晴公は、幼少にして、父の遺志を承け、武藝を修め、勇武に長じ、名を馳せ、天下に知られ、人々を慕はせしむ。其の事蹟、太平記に記され、後世に傳へ、人々の心を動かす。公の徳行、人々の模範となし、世に敬ばれ、愛され、人々の心を動かす。公の事蹟、太平記に記され、後世に傳へ、人々の心を動かす。公の徳行、人々の模範となし、世に敬ばれ、愛され、人々の心を動かす。



一
國
世
交



太平記英勇傳

稲川治部太夫源義基

稲川中義基、海軍源氏に、東進西州の
 大業を成し、御持して街道の大業を成し、
 去歲遊軍の賜に三万金騎の大業を成し、
 上高を乞ふと自願、打立東海道と御行
 形勢最良と云く、云々、
 治部三郎と御す、御小旗を
 御大止地海の御守、御旗を御
 御吉部、御旗を御守、御旗を御
 御旗を御守、御旗を御守、御旗を御
 御旗を御守、御旗を御守、御旗を御
 御旗を御守、御旗を御守、御旗を御
 御旗を御守、御旗を御守、御旗を御

一家西傳文

種下亭
種員記



一勇齋
國書堂
印

太平記英勇傳

佐田陸奥守有正

佐田有正陸奥守有正
馬七種中ノ多志村
二住ノ小島田村家
山崎有正



一家西傳大柳下其種員記

一丁方
國五方
印

甲
亥



太平記英勇傳

豊一 三河守
國共芳也

中浦猿吉郎久吉

此人忠義の天の孫と稱せしむる尾州大船町の商家
主相時常人の次子と云ふ其家名は久吉と云ふ月夜に
及ぶ事學を仕ふ事とて度摩州松川家の世傳下民
の佐子と稱大志を懐て三國の大荒天に成す事多家お仕て
船場と稱す所限りて船場と稱す事多家お仕て
船場と稱す所限りて船場と稱す事多家お仕て



大尾

交

白の巻の衣巻
腹巻の巻の衣巻
腰刀の巻の衣巻
手巻の巻の衣巻
袴の巻の衣巻
足巻の巻の衣巻
神其身申候と云ふ起て極官の位階也
豊成と云ふ水小の巻の衣巻未嘗有の巻の衣巻

一書 豊成史
柳下 子 禮員 記

太平記英勇傳

建中官兵衛重治

建中官兵衛重治の事は、太平記に記され、其の勇武は、人々に傳へられた。其の事は、太平記の卷之七に記され、其の勇武は、人々に傳へられた。其の事は、太平記の卷之七に記され、其の勇武は、人々に傳へられた。其の事は、太平記の卷之七に記され、其の勇武は、人々に傳へられた。



交

一丁
國
廿万

太平記英勇傳

美藤内蔵之進年貢

美藤内蔵之進年貢の事は、太平記に記され、其の勇武は、人々に傳へられた。其の事は、太平記の卷之七に記され、其の勇武は、人々に傳へられた。其の事は、太平記の卷之七に記され、其の勇武は、人々に傳へられた。



交

一丁
國
廿万

三伏新白吹雪
明徳平賀村衣家
共成生匠一歩中